平成　27　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4095500072		
法人名	株式会社友愛会		
事業所名	グループホーム友愛		
所在地	福岡県宮若市宮田191番地6		
自己評価作成日	平成28年1月26日	評価結果確定日	平成28年2月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成28年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者の状態の改善を目標にした、心身機能活性運動療法を引き続き行っています。昨年の敬老会で念願だった「黒田節を踊りたい」という目標もかなえられました。
昨年3名の方がお亡くなりになりましたが、2名はグループホームで皆に看取られながら穏やかに旅立たれました。職員もこの経験を胸に今後もより良い支援ができるように努めています。
退居された方の家族もときどき来所され、「ここに来たら落ち着くね」と、言ってくださいます。今後も来やすいホーム、安心できるホームであり続けたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人理念を心に刻み、ホーム理念の尊敬と感謝の心を持って、その人らしさの支援に努めている。帰宅したいとの思いに寄り添い、共に時間を過ごしたり、時間をかけた見守りで、落ち着いて生活できるようになり、信頼する職員を愛称で呼ぶ入居者もある。また、黒田節を舞いたいとの願いが叶った入居者は、今度は車イスではなく立位で舞いたいと話すまでになり、職員が目標のある生活を支援することの重要性を再確認する機会になっている。また、毎日食事介助のために来訪する家族もあり、家族のリズムある生活の支援にも繋がっている。近隣系列事業所で開催している餅つきは恒例になり、山笠や盆踊りも来訪し、運営推進会議は毎回家族、地域の民生委員、自治会長、公民館館長、消防署・警察署の職員等の参加があり、地域の理解や協力を得ながら、地域密着型サービスを展開している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,40）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名　グループホーム友愛

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念を唱和して、共有して実践につなげています。	法人理念である「時を正し、場を清め、礼を正し」を唱和し、全職員でホーム理念の尊敬と感謝の心を持って、支援の実践に努めている。職員は9人の入居者が安心して暮らしてほしいと話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事である山笠や盆踊りはホームまで来ていただいており、ホームの餅つきには地域の自治会、子供会を招待して交流をしています。	自治会加入はないが、近隣系列事業所で開催している恒例の餅つきに、地域から20～30人が参加したり、日頃は近隣の方から初物の筍などの野菜の差し入れがある。地域の山笠や盆踊りの来訪も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や来所時に話をして、認知症の人の理解や支援の方法を伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、前2カ月間の状況を報告し、意見をいただいています。朝礼やミーティングの時にその意見を報告しサービス向上に努めています。	毎回、数名の家族、地域の民生委員、自治会長、公民館館長、消防署・警察署の職員等の参加で、定期的に開催されている。会議では、特に高齢者を狙った詐欺事件等の報告もあり、防犯や交通事故など、地域の情報が提供されている。会議録は閲覧できるように掲示されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所や消防署の担当者に運営推進会議に参加いただいており、協力関係を築いています。今年度から警察署にも参加いただいています。徘徊ネットワークには会社として参加しています。	法人として徘徊ネットワークに参加している。地域同業者協議会に加入し、市担当者とも日頃から情報交換や連携を取り、制度改正についても早い段階での情報をお願いしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、研修などを通して理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	外出傾向のある入居者には、時間をとって玄関の椅子に座って一緒に話したりしている。「ちょっと待って」の声かけや、車イスを食卓に密着させる行為が身体拘束になると理解し、理念に掲げた尊敬と感謝の心で、日々のケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、研修やミーティングなどで学ぶ機会を持ち、虐待防止に取り組んでいます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修などを通じて学ぶ機会を設けています。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレットを事務コーナーに整備し、入居時に制度等の説明をしている。現在まで、事業や制度の利用はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結などの際には、十分な説明を行い、利用者や家族の理解を図っています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時に、意見などを聞くようにして、運営推進会議でも意見をしてもらっています。利用者とは、日頃からコミュニケーションをとり、意見など取り入れるようにしています。	来訪した家族に入居者の状況を報告し、意見の表出を促している。運営推進会議に参加する家族も多いが、特段の意見はない。今月の誕生会の出し物のカラオケに、ボランティアとして参加する家族もある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングには施設長も出席し、職員の意見や提案を聞き、反映しています。	ミーティングを定例化し、率直な意見を交換している。心身機能運動療法が入居者にどんな効果が出ているか、職員はどう支援したらよいのか、また入居後の体重増加傾向について食事や運動とのバランスについての検討等、ケアや業務について積極的に意見を出し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長も朝礼やミーティングに参加しており、職員の状況を把握し、向上心を持って働けるよう環境の整備に努めています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に排除していません。 職員は各自の特技を活かしせるように配慮しています。社会参加などできるよう、希望休を聞き、勤務交代にも柔軟に対応しています。	開設後1名の職員が離職したが、現任職員の声かけで1名が入職している。得た利益は職員に分配するとの運営者の方針に賛同して入職した職員が多く、定年もなく働きやすい職場となっている。室内のレイアウトなどの特技を活かしたり、資格取得を推奨するなど、30歳代から60歳代まで、男女の年齢層に幅のある職員がそれぞれの経験等を活かしながら、就労している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝礼やミーティングなど、日頃から人権尊重の話をしています。	地域同業者協議会に加入し、協議会主催の人権研修会に参加している。ホーム内の伝達講習で人権教育や啓発に取り組んでいる。日頃から、管理者は言葉遣いや対応で気になる点は、随時注意を促している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り研修を受けれるように勤務を組んで、ケアの質の向上を目指しています。 内部研修はミーティングの時に行っています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	宮若市内のグループホームが集まって、月一度の研修に参加しています。研修には、実践発表や施設見学もあり、お互いに質を高めれるようになっています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用初期は特に気を付け、声かけ・傾聴を行い、本人が安心できるように努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用を開始する時から、家族に要望など尋ねながら安心できるよう関係づくりに努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用する前に、見物を勧め、グループホームの特徴などを説明し、他のサービス利用を含めた対応に努めています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から出来ることはしていただくように声かけをしており、利用者同士もお互いに助け合いながら生活する関係を築くようにしています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の出来る範囲で通院や外出支援など協力をお願いし、共に本人を支えていく関係を築くようにしています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族や知人など来所者がよく来られています。出来る範囲で家族の協力を得て馴染みの場所に外出されるなど支援に努めています。	毎日食事介助に来訪する家族もあり、入居者本人だけでなく、家族のリズムある生活の支援にも繋がっている。携帯電話で親族と連絡を取って、医療機関受診や外食に行かれたり、宗教行事に信者として参加される入居者もある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーションや声かけなど行い孤立しないように支援しています。難聴の方には職員が間に入って話を伝えるなど工夫しています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も関係を大切にして、必要な相談や支援に努めています。 まだ母がここに居る様で…、と手作りの品を持ってこられる方もいます。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から声かけを行い、言動などからも本人の意向などの把握に努めています。 困難な場合は、家族に尋ねたり、話し合って本人本位に検討しています。	担当職員の把握した情報の共有に努めている。帰宅したいとの思いに寄り添い、共に時間を過ごしたり、時間をかけた見守りで信頼を得て、落ち着いて生活できるようになったり、職員を愛称で呼ぶまでになった入居者もある。また、意欲低下がある場合は馴染みの場所の話をしながら、思いや意向の把握に取り組んでいる。	其々の職員が把握した生活歴や気づきを共有し、さらなる思いや意欲の把握のために、シートの整備をお願いします。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との話の中から把握できるよう努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃からよく見守り・観察を行い、現状の把握に努めています。 朝・夕の申し送りに限らず情報を共有し把握に努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の生活やミーティングので内容をもとに、本人・家族と話し合いをして、現状に即した介護計画を作成しています。	担当職員によるケアの実践や気づきを踏まえ、計画作成担当者がモニタリングを実施し、定例会で計画の見直しを話し合っている。黒田節を舞いたいとの願いが叶った入居者は、今度は車イスではなく立位で舞いたいと話すまでになっている。	人員基準もあり計画に沿ったケアが実践できない場合は、入居者の理解や協力を求め、入居者と協働でその人らしい生活の支援を期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践、記録を申し送り、職員間で情報を共有しながら、実践や計画の見直しに活かしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人や家族のニーズに対応するようにしています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加するなど豊かな暮らしを楽しめるように支援しています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族が納得された病院にかかっており、病院とも良好な関係を築いています。 皮膚科などは専門医に受診するに支援しています。	協力医療機関の主治医や訪問看護に24時間オンコールできる協力体制を構築している。月2回、定期的な訪問診療では、看護職員や管理者が日頃の状況を説明し、適切な医療が受けれらるように支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当の職員を決めており、職場の看護職員や病院の看護師に状況を伝え相談できるようにしています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診時に良好な関係作りに努めています。 入院時には看護師等と情報交換や相談をして、安心して治療でき、早期退院できるように支援しています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、入居時から事業所としての方針を説明しており、意思確認書もいただくようにしています。 かかりつけ医とも話し合いをして、支援に取り組んでいます。	今年度は3名の入居者の終末期に関わり、1名は医療機関に入院され、2名はホームで看取っている。意向確認書に沿って主治医に相談しながら、其々の家族と充分な話し合いをしている。居室で付き添った家族もあった。看取りについての学習会等を開催し、全職員で看取りに関わっている。	意向確認書の取り交わしを、本人がどのような最期を望んでおられるのかを家族が理解される好機として位置付け、理念のその人らしさを具現化したケアを期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作っており、定期的に研修をして急変時などに備えています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成しており、消防署の立会のもと、消防訓練を年2回行っています。昨年は、消防訓練の際に、運営推進会議を行い、地域との協力体制も築いています。	消防署立会の避難訓練では、物干し竿の位置や火元に近い入居者からの避難、非常口に職員を配置することなど、細かな指摘を受けている。夜間対応の避難訓練を行った職員は「頭が真っ白になった」と話すなど、貴重な体験をしている。備蓄台帳も整備されている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	画一的な対応にならないよう、一人ひとりの人格を尊重し、その人その人に合った言葉かけや対応をしています。	職員の感情や取り組みの姿勢が入居者に波及すると、管理者は理念の「お互いに尊敬と感謝の心を持って接する」ことを大事にしている。安心して生活を送っていただけるよう名前で声を掛け、個々に合った対応に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で声かけ、傾聴して自己決定や本人の希望に添えるように働きかけています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその人らしい暮らしを尊重し、その人のペースで過ごせるように支援しています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪に来ていただいており、本人の好みに合わせて切っていただいています。 外出できる人は衣類の買い物に同行して好みのおしゃれが出来るように支援しています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	台ふきやお盆ふきなど出来る範囲で準備、片付をしていただいています。 日頃から本人の好みに気を付け、一部メニューを変えたりしています。	むせやすい入居者にはとろみ剤を使用しながら時間をかけた食事介助をしたり、下げ膳時の声掛けで、ドレッシングをかけて残った野菜を完食する入居者もあった。お尻が痛いと訴える車椅子の入居者の臀部にタオルを入れるなど、食事を楽しむ声かけや対応をしている。誕生会は入居者の希望でお刺身を出したりしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを行い、少ない時は本人の好みの物など代替えし、確保できるように支援しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じて声かけや介助を行い、出来る限りの口腔ケアを行っています。 週1回、歯科の往診もあり、口腔内の清潔保持に努めています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の能力に応じて自立に向けた支援を考え、対応しています。布パンツに出来るように支援しています。	健康な排便を促すために、食物繊維剤を家族に諮って導入している。トイレでひとりごとを言いながら便座に座っている入居者に、再三職員が声をかけ、自然な排泄を支援している。排便を自分で始末しようとして、反って手間がかかる場合もあるが、清拭用の温かいタオルが用意され、入居者の尊厳を損なわない支援に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分を多めに摂ってもらうように声かけを行い、体操や立位・歩行練習など運動支援も行っています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に週3回、入浴できるように支援しています。外出や行事、本人の調子・気分によっては柔軟に変更し、出来る限り本人の希望で入浴できるようにしています。	明るい浴室に個浴槽が設置され、週3回の入浴を支援している。車椅子の入居者もあり、職員が2人体制で支援している。入浴を拒否される入居者はいない。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく眠れるように、本人の体調やその時の状況に応じて、支援しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用など理解するようにしています。症状の変化にも気を付け、主治医と相談し支援しています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の性格や興味を把握し、出来る限り喜びのある生活につながるように支援しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る範囲で、家族の協力を得るなどして本人の希望に沿うようにしています。 5月には家族の協力を得て、若松へバラ園、海見物とかんぽの宿での昼食に出かけています。	今年もバラ園を見学し、海を眺めて、外食を計画している。車椅子の入居者が増え、法人所持のバスを活用し、全員で出かける予定である。市内の巨大門松の見学や初詣にも出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解して、支援しているが、現状では能力的にお金を所持している人はいません。外出時には預かり金を渡して使えるように支援しています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人的に携帯電話を持たれ、自由に電話される方もいます。 代筆など出来ない部分の支援もしています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房、空気清浄機などを使い、不快なく過ごせるように配慮しています。 玄関やリビングには季節を感じられるように絵などを貼っています。	スロープから玄関に入ると、下駄箱の上に飾られた紅梅とチューリップ、お雛様が春の到来を伝えている。玄関から居室までワンフロアーとして見通しが良く、高い天井と採光により解放感のある空間となっている。中央の共有空間にはテーブルと椅子、周りにはソファが置かれている。厨房のカウンターで食事をする入居者もあり、其々の心身の状況に応じて過ごせるように配慮している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルとは別に、カウンターテーブルやソファを置いており、各々くつろげるようにしています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使いなれた家具などを置かれ、居心地よく過ごせるようにしています。	居室入口のドアは中央に透かしガラスが組み込まれ、入居者の気配を感じられる造りになっている。お気に入りの洋服が並べてかけられたり、家族の写真が飾られ、箪笥の持ち込みもあり、居心地よく過ごせる空間となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、車いすや歩行器で自由に動けるようにしています。 廊下には手すりがあり、歩行を支援して出来る限り自立した生活が過ごせるようにしています。		